

このいせき 20. 小野遺跡

所在地：越前市小野町

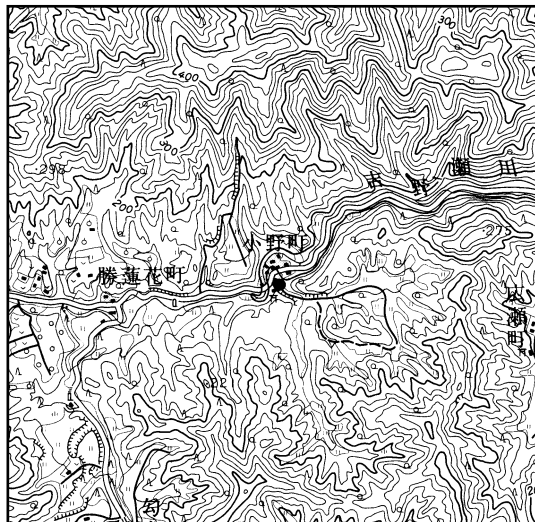
調査原因：日野川総合開発事業吉野瀬川ダム建設

調査期間：平成23年4月11日～9月30日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：5,300㎡

時代：奈良・平安・中世・近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 小野遺跡は、吉野瀬川ダム建設のために移転した小野町集落の跡地にあたります。平成22年度に引き続いての調査であり、今回の調査範囲は旧県道武生米ノ線の南側です。

遺跡は、丹生山地と南条山地に挟まれ、北には吉野瀬川が、南には小野川が流れ、山と川に囲まれた盆地を呈しています。また、東西に走る旧県道から南東方向に緩やかに傾斜しており、地元の話では、もとは湿地であったため、削平と盛土を行ったそうです。そのため、調査区の東から南側にかけては、既に削平が行われた部分が各所にあり、建物の基礎などもあることから、遺構・遺物の残存状況は良好とは言えませんでした。

遺構 調査では、掘立柱建物1棟、井戸3基、溝11条、土坑39基、柱穴多数を確認しました。遺構・遺物の時期は、律令時代、中世、近世です。遺構の分布状況は、調査区の東側では律令時代の掘立柱建物をはじめとする遺構・遺物を確認し、西側では中世から近世の遺構・遺物を多く確認しました。昨年度の調査区と比較すると、中世の遺構・遺物が増加しています。特に旧県道に近い調査区西側は、中世、近世の遺構が混在しています。旧県道部分は尾根筋にあたるため比較的地形が高く、安定した居住域であったため、掘立柱建物、石組み井戸などが築かれたのでしょうか。

主な遺構では、掘立柱建物を1棟確認しました。規模は2間×1間で、柱穴の1つはカクランのため残存していませんが、この建物は覆土・構造から判断して律令時代のものです。中世以降の建物については、西側を中心に柱根が残存する遺構、および土層の観察から柱穴と判断できる遺構が多数あることから、今後の整理作業によって何棟かの建物を確認できそうです。石組み井戸は全て近世のものです。石組みだけの小型の井戸(井戸3)、石組みの下に基礎の丸太材を敷設したやや大型の井戸(井戸4)、石組みの下に木製の集水桶を設置した中型のもの(井戸5)があります。井戸4とした井戸の底面付近からは包丁が出土しました。土坑では、直径2m前後、深さ1m前後の大型の土坑が数基あるものの、生活残滓を埋めたゴミ穴といえる性格のものは少ないようです。

遺物 出土遺物には、須恵器、中・近世のかわらけ、陶磁器があります。土器以外に石製

品では石臼やバンドコが、木製品では漆椀、金属製品では包丁が出土しました。その他、江戸時代の貨幣として、一分金や寛永通宝などが出土しました。

まとめ 小野遺跡の性格としては、昨年度と同様、府中（旧武生市中心部）と日本海側を結ぶ街道の中継地点と考えられます。

（野路 昌嗣）



一分金（右は裏面）
ほぼ原寸大



H23 年度調査区西側全景（北から）



掘立柱建物（北から）



井戸3断面（東から）



井戸5断面（北から）



土器出土状況（北から）



作業の様子（北から）